

長崎県ケアラー支援シンポジウム 2024

資料2

～ひとりにしない、社会で支えるケアラー支援～

セミナーA

地域でつながる～民間ケアラー支援団体の活動～

P 1～

長崎シングル介護を考える会 世話人 毛利 真紀 氏

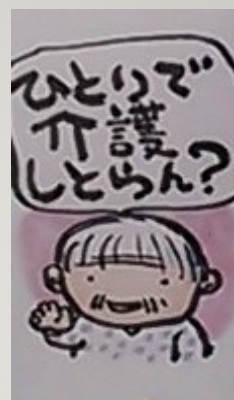
P 7～

あいネットつしま 代表 脇山 武士 氏

P16～

(参考)ケアラー支援を実施している
民間支援団体に関する実態調査結果概要

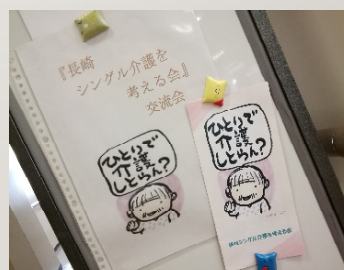
長崎シングル介護を考える会



世話人 毛利 真紀

長崎シングル介護を考える会 「会の発足」

- ・**2012年8月** 数名の立ち上げメンバーにより「市民活動団体」として活動開始
- ・同年11月に出島交流会館にて**【第1回シングル介護交流会】**開催



長崎シングル介護を考える会 「活動開始にあたり」

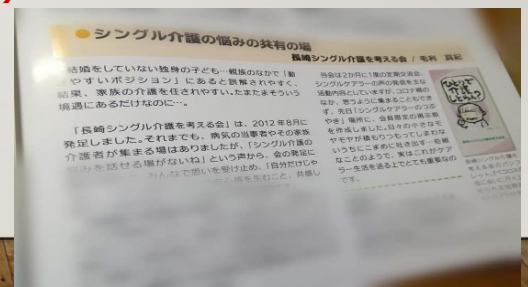
- ・助成金の申請（九州ろうきん様より）
（リーフレット作成、1周年記念講演会の開催など）



長崎シングル介護を**考える**会 「構成メンバー」

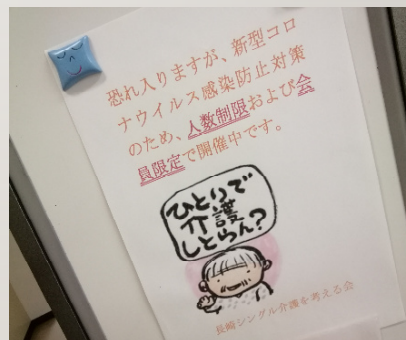
- ・世話人4名（運営者、シングルケアの**当事者**）
- ・シングル（**独身**）でケアをしている人（現役シングルケアラー）
- ・今後、そうなる**可能性のある人**、
または、シングルケアの経験がある人（**ポストシングルケアラー**）

- ・シングル介護に関心がある人



長崎シングル介護を考える会 「定期交流会」

- ・2012年11月の第1回交流会から現在まで、
奇数月の最終土曜日に開催しています（コロナ禍は制限あり）



長崎シングル介護を考える会 「現在の活動状況」

- ・2023年度から**会員制の廃止**
- ・**街中カフェ**での開催（**事前申し込み制**）
- ＊「**活動継続**」のために世話人会の負担軽減
シングルケアラーの居場所が「**そこにあり続けること**」を
いちばん大切にしたい。



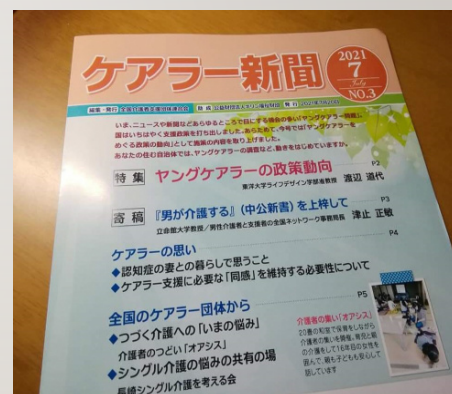
長崎シングル介護を考える会 「現在の活動状況」その 2

・全国介護者支援団体連合会

<https://kaigosyasien.jimdofree.com>

・メンバーそれぞれが自身のフィールドにおいても

それぞれのスタイルで「ケアラー支援活動」に邁進している。



長崎シングル介護を考える会 「参加者さんの声」

・参加者さんのご紹介

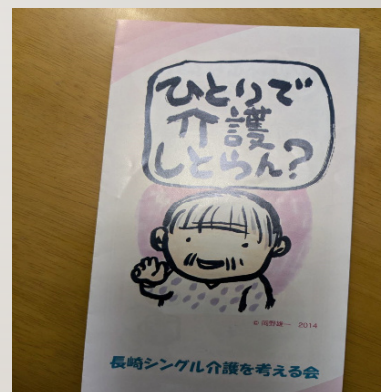
西(にし)さん



長崎シングル介護を考える会 「会のこれから」

～活動目標～

- ・シングルケアラーの居場所づくりを細く長く続けていくこと
- ・今後の国や自治体のケアラー支援に関する動きに「シングル介護」「仕事と介護の両立」「ポストケアラー支援」などをどう訴え、つなげていくか模索し続けたい。



長崎シングル介護を考える会

ご清聴ありがとうございました



長崎シングル介護を考える会

「介護する人もされる人も尊重される介護」を目指して
当会は2012年8月にスタートしました。



©岡野雄一

主な活動内容・・・

- ・二か月に一度のシングル介護交流会
(奇数月の最終土曜日を予定しています)
- ・介護をめぐる情報交換
- ・介護者の声の発信

★交流会参加方法★

- 事前に当会ホームページで開催日時をご確認の上 **メールにてお申込みください**。参加受付確認と当日の開催場所（主に長崎市内のカフェ）を返信メールにてお知らせします。

ホームページ <http://singlekaigo.jimdo.com/>

メールアドレス singlekaigo@gmail.com

★長崎シングル介護を考える会ホームページ QR コード→



★以下お願いです★

- 当日は直接お越しください。会は安心して話していただける場所です。もちろん話したくない方は話さなくても大丈夫です。それぞれにゆっくりとくつろいでお過ごし下さい。
- 出入りは自由です。途中からの参加や退席など、ご都合に合わせてご参加下さい。
- 飲食は自由です。ご自分の好きなものを注文し、お支払いも各自お願いします。
- プライバシー保護のため、お互いにここで聞いた話は、他でお話されないようお願いいたします。また、写真撮影やSNSへの投稿もお控えください。
- 介護は人それぞれです。他の方の批判はなさらぬようお願いいたします。

★インフォメーション★

- 会の様子（話題）については、個人や地域が特定されないかたちで、会ホームページのブログに簡単に載せることがあります。
- シングル介護者（シングルケアラー）をはじめとして、介護や福祉をめぐるいろんな情報を随時当会ホームページに載せております。よろしければご覧ください。
- その他、お問い合わせは、会の上記メールアドレスまでご連絡下さい。

♥参加された方が「来てよかった」と笑顔になれる集いでありますように♥

あいネットつしま活動について

あいネットつしま
代表 脇山 武士

1. 活動概要

(1)活動地域 : 対馬市

(2)活動の趣旨

- 障害児(者)及び家族が、住み慣れた街で、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきと暮らせる地域を目指して活動する。

(3)活動の目的

- 地域療育支援体制の整備・強化
- 関係者の技術・知識の向上
- 地域への啓発

2. これまでの経緯

(1) あいネットつしま立ち上げまでの経緯

平成15年11月

『ちょっと気になる子の支援を考えるつどい』
として活動開始

(2) これまでの活動内容

- ・定例会 ・地域療育研修会 ・プチあいネット
- ・ニコニコキッズ ・事例相談会
- ・デイキャンプ(屋外イベント) ・クリスマス会(屋内イベント)
- ・きょうだいの集い(家族の集い) など

3. これまでの活動内容①

(1) 学習会

- 年数回程度の開催を目標
- 「地域療育」「各種障害」「特別支援教育」「きょうだいの支援」などをテーマに
- 基本的に講師は参加者同士の持ち回り

(2) 地域療育研修会

- 開催案内を島内各機関に幅広く呼びかけ
- 島外から講師を招聘(することもある)
- 現在までに16回開催

3. これまでの活動内容

(3) デイキャンプ①

- 毎年5月頃に開催
- 障害等により支援を必要とする子ども、その家族を対象
- ウォークラリー、対州馬とのふれあい体験、作品作り、保護者懇談会 等
- 各家族に担当スタッフが付き、保護者の負担軽減もできる環境づくり
- 本年度は17回目を迎えた(途中2年間コロナで開催できず)
- 保護者の声
 - 「いつもと違う子どもの顔が見れる」
 - 「ボランティアの人との繋がりができてよかった」 など

2. これまでの活動内容④

(4) クリスマス会

- 「年1回のデイキャンプでは物足りない。もっと家族同士が知り合い、触れ合える機会がほしい。」という声を受け14回開催
- 毎年12月に開催
- クリスマスパティー、よさこいの披露、保護者懇談会

3. これまでの活動内容⑤

(5)きょうだいの集い→家族の集い①

○きょうだいの集い

- 学習会を通じ、「きょうだい」への支援の必要性を感じた。
- その後、各種イベントの中でも「きょうだい」への配慮を行ってきた。
- きょうだいだけに特化したイベント
→内容は「カレー作り」「ハイキング・イカたたき体験」など。2～3家族参加。

3. これまでの活動内容⑥

(5)きょうだいの集い→家族の集い②

○家族の集い

- 以前開催していた「きょうだいの集い」を再編し、参加対象を拡大。
- 過去には「対州馬と行く城山ハイキング」
「姫神山ハイキング」
「対州馬とのふれあいイベント」
「野外料理体験【「防災」を考えながら】」
を実施。

3. これまでの活動内容⑧

(6) 保護者懇談会

- 最近は開催できていないが、以前は毎年度開催
- 家族同士の情報交換
- イベント時の保護者懇談会でも、集まりの場の設置を要請されている。
→今すぐは厳しいかもしれないが、近いうちに開催したい。

4. 活動の特徴①

(1) 支援者同士のネットワーク

- 「離島」という地理的条件から地域療育に関する高度な専門機関、専門職の不足
→当活動を通じ『支援者のネットワーク』が形成され、お互いに不足する知識、技術を補い合う
- 活動を通じて知り合った関係者の中で「お互いに顔が見える関係」(所属と名前を挙げれば分かり合える関係)が構築
→困ったことがあった場合すぐに相談し合える



地域療育体制を強化している

4. 活動の特徴②

(2) 保護者同士のネットワーク

- 当会主催の活動への参加を通じ
 - 保護者同士が顔見知りになり、悩みや困っていることを相談しあう関係ができている
 - このような関係の中から



☆『対馬にも特別支援学校の設置を望む会』が設立

- 対馬における「後期中等教育段階における特別支援教育対象の子どもを受け皿」を要望する活動



その成果もあってか

☆平成24年度より

『虹の原特別支援学校高等部対馬分教室』設置

5. 「ケアラーとの繋がり」という視点から

※ここではケアラー ≡ 身近な人
例：親、きょうだい、祖父母 など

(1) 過去の活動を通じて

- ① かつてのきょうだい児が運営に参画
- かつて「きょうだい」としイベントに参加していた方が、実行委員、ボランティアスタッフとして運営に参画

5. 「ケアラーとの繋がり」という視点から

(2) 今後の活動について

① つながりづくりの場として(各種イベントを通じて)

- 保護者同士のつながり
- きょうだい同士のつながり
- 支援者同士のつながり
- 保護者、きょうだいと支援者のつながり

5. 「ケアラーとの繋がり」という視点から②

(2) 今後の活動について②

② ちょっとした非日常を体験できる場として(各種イベントを通じて)

- 年に数回、イベントを通じて「家」でも「学校」でもない、ちょっと違った体験ができる機会を提供する

→ 当事者、きょうだいにとって「楽しい」時間として

→ 保護者にとって、日ごろ見れない表情や成長を感じる機会として

5. 「ケアラーとの繋がり」という視点から②

(2) 今後の活動について③

③情報共有の場として(学習会や地域療育研修会を通じて)

- ・「教育」(「特別支援学級」「特別支援学校」など)について
- ・「就労」について
- ・「自立して生活すること」について
- ・「余暇」について など

→将来的には「親亡き後の支援」についても一緒に考えていきたい



将来のことについてわかる(イメージできる)ことで不安を軽減

5. 「ケアラーとの繋がり」という視点から②

(2) 今後の活動について③

④思い(悩み、喜び、希望)を共有し、一緒に考える場として
(各種イベント、保護者懇談会を通じて)

- 保護者同士の思いを共有する
- きょうだい同士の思いを共有する
- 支援者は、保護者、きょうだいの思いに共感し理解する

⑤必要な仕組みづくりのきっかけとして(次のステップとして)

- 必要な仕組みを一緒に考えてつくる「きっかけ」として

6. 最後に

○長崎県ケアラー支援条例第2条(定義)

ケアラー

『一 高齢、障害又は疾病等により援助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助(以下「介護等」という。)を提供する者をいう。』



『介護等を行わずとも、ただ身近にいる存在』(特にきょうだい)の気持ちにも寄り添った活動を継続していきたい

ケアラー支援を実施している 民間支援団体に関する実態調査結果概要

令和6年10月



実態調査から見えた課題

1 「ケアラー」、「ケアラー支援」に関する県民への理解促進

- 県民に対する認知度の向上
→ 啓発月間の設定・シンポジウム開催など様々な機会を通して、広報啓発を継続。

2 民間ケアラー支援団体に関する周知

- ケアラー支援に関する団体の県ホームページ等での情報発信
→ 県ホームページを通じて、県民や関係機関などに周知。
- 団体で活動や支援する方の発掘
→ 地域で活動するケアラー支援団体やその活動内容を知ってもらうことで、一緒に活動する方の発掘につなげる。

3 支援機関の人材育成

- ケアラー支援に実施している団体の周知
→ 県で実施する多分野の専門職による連携研修、関係機関からの依頼による研修などで情報発信を行っているページの周知を実施。
- ヒアリング調査について「協力可能」と回答している団体に聞き取りを行い、その内容を参考に取組の検討を行う。

ケアラー支援を実施している民間支援団体に関する実態調査結果

調査目的

ケアラー支援に関する民間支援団体等が行う相談・助言、ピアサポート、日常生活支援等の活動、団体の運営や支援の実施についての課題等を把握し、団体に対する支援を検討するとともに、ケアラー支援に関する施策を総合的に推進するための資料とすることを目的とする。

調査対象

【調査対象者】 ケアラー支援に関する活動を実施している県内の民間支援団体

* 本調査における民間支援団体とは、以下の活動を非営利で行っている団体であり、法人格の有無は問わない。

(主な活動内容)

- ① 相談窓口の開設、日常生活支援等の活動
- ② ケアラー同士が語り合う場の開設
- ③ 団体同士の情報交換の場の設置 など

【調査方法】 庁内及び市町、社会福祉協議会を通じて把握した団体あてに回答依頼を送付(89団体)するとともに、県ホームページ及び市町等を通じて広く調査について周知回答を依頼

【調査回答数】 44団体

主な調査項目

(1) 団体種別・活動地域

- ・法人種別
- ・活動に関わっている方の種別

(2) 支援対象・活動内容

- ・支援対象、ヤングケアラーへの支援の有無
- ・ケアラーに対する支援内容
- ・支援や相談の実績(令和5年度)
- ・活動を始めたきっかけ
- ・活動が周囲にもたらした変化
- ・運営や支援の実施にあたっての課題
- ・行政、関係機関等に期待すること

スケジュール

令和6年3~4月	庁内・市町・県社会福祉協議会に事業概要の説明協力依頼
5~7月	関係課等で把握されている団体に関する情報提供を依頼
5~7月	実態調査票の検討・作成
7月	有識者会議委員への意見聴取(個別実施)
8月2日	調査票送付、調査実施 県ホームページ・市町・社会福祉協議会に周知(調査期間:~8月30日)
10月4日	有識者会議に概要報告・調査結果を公表

ケアラー支援を実施している民間支援団体に関する実態調査結果

主な結果 (回答団体数=44)

○団体種別

・法人格を有して活動している団体が約5割。

○団体で主に活動をしている方

・ケアラー自身や元ケアラーが約5割。

○支援しているケアラーの属性

・主に障害のある方、高齢の方をお世話している・以前していた方が、それぞれ約3割程度、ケアラー全般に対しては約1割程度。
・ヤングケアラーへの支援を行っている団体は約1割程度。

○活動内容

・ケアラー同士が集まり、語り合う場を定期的で開催するなど「ケアラー同士で語り合う場の開設」が最も多い。
・次いで、介護、障害サービスの利用に係る援助など「ケアラーが抱える問題について、行政や各種支援機関へのつなぎ」となっている。
*主に活動している方がケアラー自身である団体では、「ケアラー同士で語り合う場の開設」や「ケアラーが抱える問題について、行政や各種支援機関へのつなぎ」を実施している団体が5割を超えている。
・相談窓口の設置、家事・各種手続きの代行、地方講演会などの普及啓発、宿泊施設の提供など活動内容は多岐にわたる。

○活動のきっかけ

・認知症や障害のある方の支援を通じて出会った。
・家族のつとめなどケアラー同士で交流できる場がなく、困っている人は必ずいるはずと思ったから。

○活動が周囲にもたらした変化

・「認知症や障害に対する周囲の理解に繋がった」との声がある一方、「認知症や障害に対する正しい知識の啓発」が必要との声がある。
・ケアラーの悩みを共有することにより、介護不安の軽減につながっている。
・行政や関係機関とのつながりができた。

○運営や支援にあたっての課題

・「一緒に活動する人、同じように支援をしたいと思う人がすくないなど活動するための人員が不足している」と回答した団体が約4割程度。
続いて、「団体の活動を継続したいが、後継者がいないなど団体の中心となる人が少ない」、「活動費などの経済面で不安がある」、「団体の管理運営面で、知識・技術などが不足していることがある」となっている。
*主に活動している方がケアラー自身である団体では、「活動するための人員がいない・中心となる方がいない」、「情報発信ができていない、やり方が分からない」との声が高くなっている。

○行政や関係機関等に期待すること

・「県民向けのケアラー支援に関する広報」が約5割となっており、次いで「団体の活動について、県民向け等の情報発信に関する支援」や「地域の支援機関の人材育成」と続いている。
*主に活動している方がケアラー自身である団体においては、「県民向けの情報発信に関する支援」を期待する意見が多い。
*法人格を有しない団体においては、「県民向けのケアラー支援に関する出前講座の開催」が高くなっている。